

令和元年度

**I C Tの教育活用を推進する実践研究  
指導事例集**

北九州市立高見中学校

①校種・学年 教科等・単元名	<input type="checkbox"/> 小学校 <input checked="" type="checkbox"/> 中学校	学年 2年	教科等 国語	単元名 魅力的な提案をしよう
②授業スタイル	<input type="checkbox"/> 教師説明型 <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒実践型 <input type="checkbox"/> 同時進行型 <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒発表型 <input type="checkbox"/> 児童生徒自主学習型			
③実践タイトル	魅力的な提案をしよう～自分の願いや想いを明確にして、新しい硬貨のデザインを考えよう～			
④本時のねらい	資料や機器などを効果的に活用し、わかりやすいプレゼンテーションを行う。			
⑤主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT教材を用いて多様な方法で発表する材料を集め、聞き手を意識して材料を整理する。</li> <li>・聞き手が知りたいことを想定するとともに、資料や機器を効果的に活用する方法を学ぶ。</li> </ul>			
⑥本時の展開 (主な学習活動)	学習の流れ		主な学習活動と内容	ICT機器・教材・コンテンツ等
	導入	1時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい時代への願いや想いをまとめ、硬貨のデザインを考える。</li> <li>・自分の願いや想いにふさわしいデザインを考えるために、材料を集める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルテレビ</li> <li>・インターネット</li> </ul>
	展開	2時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの案を持ち寄り、グループの中でまとめる。</li> <li>・パワーポイントの使い方を学ぶ。※技術科</li> <li>・パワーポイント作成</li> <li>・提示する資料と対応させて、話す内容の要点をまとめて進行案を作る。</li> <li>・パワーポイントを用いてグループごとに発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットパソコン (グループにつき一台)</li> <li>・SKYMENU</li> <li>・デジタルテレビ</li> </ul>
	まとめ	1時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ムーブノートを使って、どのグループの提案が最もわかりやすく説得力があったか、その理由を考えながら話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットパソコン (一人につき一台)</li> <li>・ムーブノート</li> <li>・デジタルテレビ</li> </ul>
⑦活動の様子 (画像添付)	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;">      </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き手を意識した発表の工夫や資料提示のタイミングの工夫</li> <li>・ムーブノートを使った意見交流</li> </ul>			
⑧児童生徒の反応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイントを使うことで、前よりもタブレットの使い方がよくわかるようになった。</li> <li>・相手にしっかり伝わるようなプレゼンを考えて、社会に出ても役立つような勉強ができた。</li> <li>・声だけで発表を聞くよりも、分かりやすく、より気持ちが伝わる発表になったと思う。</li> </ul>			
⑨実践の手応え	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めて自分たちでパワーポイントを用いる学習だったが、プレゼンテーションを行うことで、機器を使用する力、伝えようとする意欲が向上したと思う。回数を重ねていくことで、より効果的な機器の使い方、相手の心情に訴えかける表現の仕方を学んでいけるよう、展開を工夫していきたい。</li> </ul>			

①枝種・学年 教科等・単元名	<input type="checkbox"/> 小学校 <input checked="" type="checkbox"/> 中学校	学年 3	教科等 数学	単元名 円の性質
②授業スタイル	<input type="checkbox"/> 教師説明型 <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒実践型 <input type="checkbox"/> 同時進行型 <input type="checkbox"/> 児童生徒発表型 <input type="checkbox"/> 児童生徒自主学習型			
③実践タイトル	円が持っている性質を予想し、自分の言葉でまとめよう			
④本時のねらい	円周上に12等分された点がある円の中に30°の角を作り、共通点を見いだす活動を通して円周角や中心角との関係性を予想し、表現することができるようにする。			
⑤主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等のねらい	・多数の作図を一齐に共有することで、自分では思いつかない考えを共有することができる。 ・複数の図を重ね合わせることができ、共通点や相違点を見出しやすくなる。 ・各班の意見を一齐にTV画面、タブレット端末に提示することで、全員の考えを共有することができ、さらにテンポよく授業を展開することができる。			
⑥本時の展開 (主な学習活動)	学習の流れ	主な学習活動と内容		ICT機器・教材・コンテンツ等
導入	12分	1. 宿題の解答を班で共有し、その1つを画像化し、全体共有する。 2. 各班の画像から共通点を見だし、グループ化する。 3. めあてを確認する。		教師用タブレット端末 生徒用タブレット端末 デジタルTV ワークシート
展開	30分	4. 円周角という語句を学ぶ。 5. 円が持っている性質を個人で考えた後、班で共有し、性質をまとめ、タブレット端末に記入する。 6. 各班がまとめた円の性質を全体で共有する。		教師用タブレット端末 生徒用タブレット端末 デジタルTV ワークシート
まとめ	8分	7. 各班の意見をもとに、各自でまとめを書く。 8. 振りかえりシートを、各自で書く。		教師用タブレットPC デジタルTV ワークシート 振りかえりシート
⑦活動の様子 (画像添付)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>1. 2. の活動の様子</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>5. 6. の活動の様子</p>  </div> </div>			
⑧児童生徒の反応	・自分の班だけでなく、他の人や班の図による意見をたくさん共有することができ、作図の説明や個人の考えを聞こうとする動きが多く見られた。また見た目は違うが同じ考えであるものをグルーピングして、共通点を話し合っていた。 ・タブレット端末に表示された各班の円の性質に関するまとめを見ながら、自分のものと比較したり、自分のものに付け加えたりしていた。 ・気になった考えに対して疑問をもち、それを班内で再検討したり、質問したりしていた。			
⑨実践の手応え	・多数の作図を一齐に共有することができ、それをグルーピングすることで共通点や相違点を自分たちで見出すことができていた。 ・生徒が発表するときには、書き込みをしながら行うため、自分の考えを相手に伝えやすいように感じた。 ・スマートフォンやタブレット操作に慣れている生徒たちなので、スムーズに意見の発信、受信ができていた。また人の意見から自分の意見を見直し、訂正したり、付け加えたりする生徒が見られ、深い学びにつながっていた。			

①校種・学年 教科等・単元名	<input type="checkbox"/> 小学校 <input checked="" type="checkbox"/> 中学校	学年 2年	教科等 社会科	単元名 近畿地方の第1次産業
②授業スタイル	<input type="checkbox"/> 教師説明型 <input type="checkbox"/> 児童生徒実践型 <input type="checkbox"/> 同時進行型 <input type="checkbox"/> 児童生徒発表型 <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒自主学習型			
③実践タイトル	近畿地方の第1次産業について調べよう。 タブレットPCを授業で使用することで、興味関心に応じた掘り下げができ、生徒一人一人が産業を支える人々の姿についてより深く理解することができる。			
④本時のねらい	タブレットPCを使い、調べ学習をすることで、地域の特性や交通、自然、資源などを活かし、知恵と技術で第1次産業に取り組む人の姿を理解し、第1次産業の課題や地域の特徴を捉えさせる。			
主に活用した ICT機器・教材・ コンテンツ等のね らい	タブレットPCを2人～3人に一台使わせることで、興味関心のある地域やどの分野（農業、漁業、林業）を調べるか、協働して主体的に取り組めるように仕込んだ。 ミライシード（オクリンク）を使用することで、どのグループが何を調べているのか分かるため、生徒間で情報が共有され、理解が深まる。また、つまづいているグループの確認ができ、瞬時に対応し、支援や理解を深める手だてを取ることができる。			
⑥本時の展開 (主な学習活動)	学習の流れ	主な学習活動と内容		ICT機器・教材・コンテンツ等
導入	10	1. 本時のねらい「近畿地方の第1次産業について調べよう」を確認する。		大型テレビ 教師用タブレットPC 生徒用タブレットPC（12台：班に2台）
展開	30	2. タブレットPCを使って、様々な検索をかけ、自分たちで情報を集める。 オクリンクを使い、グループの調査状況を学級で確認する。 ワークシート（別紙参照）に調査内容を記入する。検索方法などの支援をICTサポーターから受ける。 3. 集めた情報を読み取り、必要なものを各自ワークシートに書き込む。		ミライシード（オクリンク）
まとめ	10	4. 各グループでどんな情報を集めたのか、簡単に発表する。 5. まとめと振り返り		大型テレビ 教師用タブレットPC
⑦活動の様子 (画像添付)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>困っている生徒の支援にあたるICTサポーター</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>タブレットPCで資料を選択し、プリントに記録する生徒</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>オクリンクを使い、各グループの状況を確認し授業をすすめる場面</p> </div> </div>			
⑧児童生徒の反応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットPCの操作に慣れている生徒が多く、スムーズに授業を進めていた。</li> <li>・班に2台のタブレットPCをわたして、調べ学習をすすめるため、協力し、次々と検索をかけ、主体的に調べ学習をすすめていた。</li> <li>・ミライシード（オクリンク）を使用することで、生徒の興味関心や現在調べている内容が大型テレビで、瞬時にわかるため、他グループの学習の状況や検索の仕方など、調べ学習の共有化が図られた。</li> <li>・タブレットPCが固まった時や情報収集の仕方などについて、ICTサポーターが授業中に適切に動き、生徒支援にあたっていたため、効率的な授業展開が行えた。</li> </ul>			
⑨実践の手応え	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師用PC（オクリンク）を用い、生徒が使用しているタブレットPCをすべてテレビ画面に写し出すことができ、情報や理解の共有化が図られ、授業のねらいが達成できた。</li> <li>・タブレットPCを2～3人に1台わたすことで、対話的主体的な学びを一時間の授業の中に取り入れることができた。</li> <li>・将来、子どもたちが何らかの課題に出会った時、課題解決のために情報を収集し、分析する力が必要となってくるが、その力の基礎を培うための実践とすることができた。</li> </ul>			

①校種・学年 教科等・単元名	<input type="checkbox"/> 小学校 <input checked="" type="checkbox"/> 中学校	学年 3年	教科等 理科	単元名 物体の運動
②授業スタイル	<input type="checkbox"/> 教師説明型 <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒実践型 <input type="checkbox"/> 同時進行型 <input type="checkbox"/> 児童生徒発表型 <input type="checkbox"/> 児童生徒自主学習型			
③実践タイトル	理科教育におけるICTを活用した「わかる授業」の創造 ～実験・観察における瞬間変化の視覚的提示～			
④本時のねらい	斜面を下る台車の動画を分析・比較することを通して、力がはたらき続ける物体の動きについての特徴を捉えることができるようにする。			
⑤主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等のねらい	○斜面を下る台車の動画を撮って分析することを通して、観測を容易にするとともに、合成写真をつかって物体の速さの変化を視覚的に提示することで、理解を深めることができる。 ○オクリンクでスライドをつくる活動を通して、現象について話し合い表現させることで、深い思考を促す。			
⑥本時の展開 (主な学習活動)	学習の流れ	主な学習活動と内容		ICT機器・教材・コンテンツ等
導 入	0	1 前時に作成したオクリンクのスライドを見ながら、力のはたらかない運動の特徴について復習を行う。		・テレビ ・タブレット（オクリンク） 教師機：1台
展 開	10  20  25	2 斜面を下る台車の動画を撮影し、動画から連続写真を作成する。 ○ 連続写真から速さの変化を見いだす。  3 ばねばかりを使って斜面上に沿う力を測定する。  4 結果と考察をまとめ、全体発表を行う。  5 傾斜大・小の結果を比較する。		・タブレット（スカイメニュー） 教師機：1台 生徒機：各班に1台 ※「動画比較」→「重ねる」→「画面撮り」を繰り返し使用する。  ・タブレット（オクリンク） 生徒機：各班に1台
ま と め	45	6 生徒の発表や発言を元に、本時のまとめを行う。		・タブレット（オクリンク） 教師機：1台 ・テレビ
⑦活動の様子 (画像添付)	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>↑動画を撮っている様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>↑班で考察をまとめる様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>↑オクリンクで発表した一部</p> </div> </div>			
⑧児童生徒の反応	○従来の記録テープの長さで速さを計算する方法よりも、画像として取り込んだデータを比較、書き込み等を行うことで、運動の変化を視覚的にとらえることができ、理解を深めることができた。 ○タブレットを用いることで、画像への書き込み・図・数値・文字など、実験の結果および考察を自由に表現することができていた。 ○全員でタブレットを囲んで、「どのようにしたらうまく説明できるか」と普段の話し合い活動よりも活発に話し合いが行われていた。 ○生徒の振り返りシートより「実物（動画の写真）を使ってそれに直接書いたのが、イメージがしやすかった。」「力はずっと同じなのに、速さが速くなるって不思議だなと思った。」			
⑨実践の手応え	○理科の実験は一瞬で変化するなどして結果を見落としやすい上に、変化の過程がその場に残らない。そのため、動画を撮影し分析をするという方法は、現象を任意の時間で区切って観測することができる点、実験およびその過程を再度確認できる点において有効であると感じた。 ○本実験は本来記録テープを用いて行うものであるが、テープの長さが台車の速さを表すということがイメージできない生徒が多い。数値や他のもので表すのではなく、実物の記録をそのまま使用し分析させることで現象を視覚的に提示し、理解につなげることができた。 ○話し合い活動に取り組み、結果を画像への書き込み・図・数値・文字写真等を用いて発表することは、多様な見方考え方の共有ができ、生徒のより深い思考につながることを実感することができた。			

①枝種・学年 教科等・単元名	<input type="checkbox"/> 小学校 <input checked="" type="checkbox"/> 中学校	学年 1	教科等 英語	単元名 Presentation 1 自己紹介
②授業スタイル	<input type="checkbox"/> 教師説明型 <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒実践型 <input type="checkbox"/> 同時進行型 <input type="checkbox"/> 児童生徒発表型 <input type="checkbox"/> 児童生徒自主学習型			
③実践タイトル	より効果的に伝える			
④本時のねらい	自分の良さをアピールする自己紹介を仕上げよう			
⑤主に活用した ICT機器・教材・ コンテンツ等のね らい	タブレットのビデオ機能を使って自己紹介を録画し、映像を見て自己紹介を仕上げる			
⑥本時の展開 (主な学習活動)	学習の流れ	主な学習活動と内容		ICT機器・教材・コンテンツ等
導入	0 5	前時の学習を振り返り、帯活動の会話練習を行う。		
展開	10 25	前時に班で録画した発表の映像を振り返り、話し合いをする。 改善した自己紹介を班で発表する		班で録画したビデオを視聴し、自分の班の発表を振り返る
まとめ	30 50	ムーブノートを使って振り返りをする。その際希望する2班には改善した自己紹介を前で発表させ、前時の動画と比較する。		で本時の振り返りをしてムーブノートに投稿し、クラスで共有する。
⑦活動の様子 (画像添付)				
⑧児童生徒の反応	熱心に録画した映像を見ては話し合いを行い、どのように伝えたら効果的かという工夫をしていた。学んだ英語を使って自己紹介をビデオに録画されることに抵抗感を感じていた生徒も初めは少なからずいたが、「伝えたい」という思いが強くなると何度も録画をお願いする生徒もいた。			
⑨実践の手応え	自分が英語をどのように話しているのかを見る機会はあまりないため、新鮮だったようだ。ビデオ撮影や録画された映像を見る操作は比較的容易であるため、操作に手間をとられず、スムーズに実践が進んだ。			

①枝種・学年 教科等・単元名	<input type="checkbox"/> 小学校 <input checked="" type="checkbox"/> 中学校	学年 2	教科等 音楽	単元名 混声3部合唱「時の旅人」パート練習
②授業スタイル	<input type="checkbox"/> 教師説明型 <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒実践型 <input type="checkbox"/> 同時進行型 <input type="checkbox"/> 児童生徒発表型 <input type="checkbox"/> 児童生徒自主学習型			
③実践タイトル	効率よくメロディーを覚えよう。			
④本時のねらい	3つのパートがロスタイムなしで練習できるよう、3つのグループで同時に活動する。			
⑤主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等のねらい	タブレットに英語学力調査で導入されたヘッドセットを接続し、他のパートが歌い方の指導を受けている間に、自分たちで一斉に音とりをする。			
⑥本時の展開 (主な学習活動)	学習の流れ	主な学習活動と内容		ICT機器・教材・コンテンツ等
導入 0 5	楽語記号の復習をし、自分のパートの、新曲のメロディーを覚える事を理解する。			
展開 10 25	3つのパートに分かれ、発声の指導をうけていないパートが、イヤホンに接続したタブレットを使用して、個人で → パートで、の順に音とりをする。		事前にパートごとにメロディーを取り込んだタブレット及びヘッドセット 楽譜	
まとめ 30 50	パート事にイヤホンを外し、正しい音程で歌えているかをシンセサイザーの伴奏で活動してみる。		シンセサイザー	
⑦活動の様子 (画像添付)				
⑧児童生徒の反応	タブレットには慣れていても、ヘッドセットを接続しての音取りは初めての体験だったため、興味津々で一糸懸命活動していた。			
⑨実践の手応え	「初めての楽曲を自分達でパート練習を進める」という体験が少ない生徒たちだったため、1パートを教師が指導している間に、自分で音を確かめられるという意味では、ロスタイムが少なく、大変意義があったが、3年生ともなると、「生の音で、みんなで進めたい」という欲求の方が大きかった。			

①枝種・学年 教科等・単 元名	<input type="checkbox"/> 小学校 <input checked="" type="checkbox"/> 中学校	学年 1年	教科等 美術	単元名 二つの絵画を比べてみよう
②授業スタイル	<input type="checkbox"/> 教師説明型 <input type="checkbox"/> 児童生徒実践型 <input checked="" type="checkbox"/> 同時進行型 <input type="checkbox"/> 児童生徒発表型 <input type="checkbox"/> 児童生徒自主学習型			
③実践タイトル	各教科等におけるICTを活用した「わかる授業」の創造 ～生徒同士が「対話」を通して理解を深める学習指導法を探る～			
④本時のねらい	二つの絵画を比べながら鑑賞することで絵画の見方を深め、作者の表現したかったことに迫る。			
⑤主に活用した ICT機器・教材・コンテンツ等のねらい	・タブレットを活用することで作品を拡大し、自分の見たい場所を今までの鑑賞とは違った視点で作品鑑賞できるようにする。			
⑥本時の展開 (主な学習活動)	学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT機器・教材・コンテンツ等	
導入	10	本時の流れを確認し、テレビに二つの作品を大きく映す。 二つの絵を見ながらワークシートに自分の意見を書く。	タブレット テレビ ワークシート	
展開	25	班ごとにタブレットを起動させ、作品を確認する。 二つの作品を拡大して鑑賞し意見を交流する。 ・登場人物は何をしているか。 ・人を取り巻く風景はどんな印象か。 ・作者の表現したかったことは何か。 意見を班で集約し、班の意見としてまとめる。	タブレット ワークシート	
まとめ	15	班の意見を提出し、テレビで確認しながら鑑賞を深める。 本時の学習を振り返る。	テレビ	
⑦活動の様子 (画像添付)				
⑧児童生徒の反応	○他の授業でもタブレットを用いているので、生徒はスムーズにログインし、絵を拡大したり意見を書きこんだりできた。 ○作品を拡大して鑑賞する機会はあまりないので、生徒がとても楽しそうに作品を拡大し、教科書で鑑賞できない細かい部分まで迫ることができていた。 ○文章で自分の作品に関する見方や考え方を書き、共通の広場で意見を交流出来るので、時間をかけずによりたくさんの意見に触れることができた。			
⑨実践の手応え	○ICTを使うことで普段とは違う作品の見方が出来ていた。作品を色々な方法で鑑賞できるのはとても面白いと感じた。特にピーテル・ブリューゲルの作品のように、たくさんの人物が描かれた群像画の鑑賞では、拡大してそれぞれの人物の動きにスポットをあてて確認することができるので、生徒も意欲的に意見を交流することができた。また、ICTを使うことで、意見の集約を時間短縮で行うことができ、1時間の鑑賞としては、内容の深い授業ができたのではないかなと思う。今後も鑑賞の授業で効果的に使っていきたい。			

①校種・学年 教科等・単元名	<input type="checkbox"/> 小学校 <input checked="" type="checkbox"/> 中学校	学年 1	教科等 家庭科	単元名 災害に備えた住まい方について考えよう
②授業スタイル	<input type="checkbox"/> 教師説明型 <input type="checkbox"/> 児童生徒実践型 <input checked="" type="checkbox"/> 同時進行型 <input type="checkbox"/> 児童生徒発表型 <input type="checkbox"/> 児童生徒自主学習型			
③実践タイトル	よりよい食生活を目指して、食糧自給率を上げるためにできることを考えよう。			
④本時のねらい	前時までに、日本の主な災害について学習し、災害が私たちの生活にどのような影響を与えるかは、災害発生を基点とした段階的な局面による災害マネジメントサイクルとよばれるものであることを考えまとめてきた。防災活動を被害防止、被害軽減、応急対応、復旧・復興の局面に分け、災害発生後の対応には地域の力（共助）や行政の援助（公助）に頼らざる得ない場面がある。そこで本時は、それらに頼るためには普段から情報を収集すること、近所付き合いに主体的に参加するという自分の努力が欠かせないことを知り、災害発生時の状況を想定し、どうすれば被害を最小限に抑えることができるかを話し合う。住まいの中で災害対策について確認し、地域や家庭での災害対策を考え、地域の実態に合った災害対策を話し合う。また、豪雨災害で板櫃川が氾濫した場合、高見小校区のハザードマップを使って考え、早い段階での避難先と逃げ遅れたときの避難先を調べ個人で考え班で意見交流を行う。災害のときに必要な物資や住まいに備えておくべきものを話し合い、その際タブレットを班で1台使用し、まとめた意見をムーブノートを使い、みんなの広場にリアルタイムに提示することで思考を深めていきたい。			
⑤主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等のねらい	・タブレットを活用することで、関連する事項について調べたり、資料を拡大・縮小することができる。 ・各班の意見をムーブノートを使い、リアルタイムにTV画面に提示することで、各班の考えを共有し深めることができる。また、意見を集約する際に、共通したキーワードを検索することで、共通点などをまとめたり比較したりするなど、様々な機能を使用してまとめることができる。			
⑥本時の展開 (主な学習活動)	学習の流れ	主な学習活動と内容		ICT機器・教材・コンテンツ等
	導入 10	1. これまで学習してきた日本の主な災害と災害が私たちの生活にどのような影響を与えるかを関連させて考えさせる。 2. 本日のめあてを確認する		タブレットPC デジタルテレビ
	展開 30	3. 課題である災害発生時の避難場所を高見小校区ハザードマップを資料として、全タブレットPCへ配布する。 4. ムーブノートで配布された広場に、班で考えた意見をどんどん投稿していく。 5. 拍手マーク順に並べ替え、考えを確認。キーワードを検索しどのような言葉がたくさん使われていたのかを確認。		タブレットPC (ムーブノート) デジタルテレビ 学習プリント
	まとめ 10	6. 出てきた意見を整理し、グループごとにハザードマップを用いて、災害を想定し危険な場所やその対策、避難場所を書き込み、今後どのようにしていけば良いかを発表し合い、意見をまとめる。 7. 最後に、これからの住生活で自分や家族ができることを個人で考え、ワークシートに自分の宣言文として書き発表する。		タブレットPC デジタルテレビ 学習プリント
⑦活動の様子 (画像添付)	○リアルタイムで生徒の意見を確認できるので、それらを参考にして各班の考えを出すことができる。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div>			
⑧児童生徒の反応	○同じキーワードに色がついて、同じ意見の人がいることがわかり、同じ意見でも自分の言葉で表現しようと意欲的に取り組んでいた。 ○自分の意見を付箋で書いた場合は、グループ内では目で見て意見を共有できるが、他の班の友達の意見はまとめの際にも詳しく見ることはできない。タブレットPCを使うことによって、リアルタイムで多くの友達の意見を共有でき、生徒は自信をもって学習することができた。			
⑨実践の手応え	○タブレットPCを話し合い活動のツールとして活用することで、個人や全体の考えを共有したり、深めたりすることが容易にでき、解決に要する時間も早くなることが期待できるため、効率的な問題解決学習を展開し、解決困難な問題も解決できるようになった。			

①校種・学年 教科等・単元名	<input type="checkbox"/> 小学校 <input checked="" type="checkbox"/> 中学校	学年 1学年	教科等 保健体育	単元名 フロアバレーボール
②授業スタイル	<input type="checkbox"/> 教師説明型 <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒実践型 <input type="checkbox"/> 同時進行型 <input type="checkbox"/> 児童生徒発表型 <input type="checkbox"/> 児童生徒自主学習型			
③実践タイトル	生徒が主体性を持った体育実技の取り組み。			
④本時のねらい	・競技を通して、基礎的な技術を身に付け、自己の役割を果たし、ゲームを楽しむことができる。 ・話し合いや関わり合いの機会をもつことで、言葉の大切さや仲間の大切さを実感できる。			
⑤主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等のねらい	スクリーン、プロジェクタ、テレビ（4台） タブレットPC5台、発表ノート（SKY）			
⑥本時の展開 (主な学習活動)	学習の流れ	主な学習活動と内容		ICT機器・教材・コンテンツ等
導入	10	○ラジオ体操第2をプロジェクタで流す。 ○前回までの動画を見直して各班で練習を考えるよう促す。		タブレットPC 発表ノート
展開	30	○前衛・後衛の動きを確認し、アイデアを話し合う。 ○練習動画やノートなどを活用し話し合う。 ★苦手なグループ（生徒）にはスローやコマ送りなどを取り入れるなどの助言をする。 ○それぞれの動作をタブレット（発表ノート）に整理して、グループ内で流れを一目で分かるようにする。		タブレットPC 発表ノート
まとめ	10	○自分たちの動きを動画やノート（ICT）で見て、より良い動きに修正する。 ○本時の活動をグループで振り返ることによって、本時の反省と次時の目標を確認する。		タブレットPC 発表ノート
⑦活動の様子 (画像添付)				
⑧児童生徒の反応	○生徒の反応は良く、自分の苦手なところや気づきなどを確認することにより運動に関する理解を進めることが出来た。 ○発表ノートの活用により次の授業に活用できるように自分たちで工夫をすることが出来た。 ○提出したノートをみんなで共有し、本時の反省、次時の目標を確認ができるようになった。 ○各モニターを使い動画や確認、振り返りを行えるようになった。			
⑨実践の手応え	発表ノートに気づきなどを保存して活用し、単元ごとにまとめることができ工夫や想像が大いに膨らみ生徒自身の体力の向上につなげることが出来た。本教材を通して、味方とのコミュニケーションをとり相手コートに積極的にボールを返すという仲間との関わりを大切にすることを身につけさせることができた。その点からも協力や励まし、雰囲気作りが大切でありチームの話し合いや関わり合いの機会をもつことで、仲間の大切さを実感できたと感じる。			